

## 平成24年度 学校経営計画書及び自己評価計画書

石川県立金沢泉丘高等学校(全日制課程)

学校長 村澤 勉

### 1 教育目標

心身一如の発達につとめて

真理を求め、勉学を第一義とすること  
情操を豊かにし、品位を高めること  
誠実にして、社会から信頼されること

正義を愛し、自らを清くすること  
自らとともに、他の人格を重んずること

### 2 中・長期的目標

#### (1) 学校の現状

- ① 本校は、創設以来「心身一如」を校是とし、調和のとれた人材育成に取り組んできた。確かな学力を身につけさせるとともに、心身共に健全で品位と良識あふれる次世代を担うリーダーの育成をめざしている。
- ② 大学進学に関しては、県内有数の進学校としての実績を収めているが、全国を視野に高い志を掲げて学習させるとともに、第一志望を実現させることをめざしている。
- ③ 平成23年度に文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールの研究開発が3期目(5年間)の指定を受けた。生徒の興味・関心を高める指導法の研究をとおして、理数科だけでなく学校全体の活性化を図っている。
- ④ 今年度からはじまる「いしかわニュースーパーハイスクール」事業をとおして、人文科学、自然科学の両分野における幅広い知識を身につけ、総合力を備えた国際性に優れた次世代を担うリーダーの育成をめざしている。
- ⑤ 学校評価の実施、土曜スクール開校、校内職員研修の充実等を行い、保護者や県民から信頼される学校づくりを進めている。

#### (2) 生徒に関する中・長期的目標

- ① 確かな学力の育成  
進学実績の向上をめざし、質の高い教科指導と学習意欲に応える授業を組織的に展開する。
- ② 豊かな心の育成  
「心身一如」の具現化に向けた有意義な体験が展開されるよう、部活動・学校行事・社会奉仕活動等の環境整備を図り、「ふるさとを想ういしかわのリーダー」に必要な人格の陶冶をめざす。

#### (3) 教職員・学校組織等の望ましい在り方

- ① 組織の活性化と指導力の向上  
校務分掌において、副校長・教頭・主幹教諭・主任の位置付けを明確にし、学校運営の機能化を図る。教職員が互いに教育実践をとおして、計画的に指導力の向上を図る。
- ② 開かれた学校づくり  
本校の方針や特色ある取り組みを、積極的に県民に伝え、広く協力・支援が得られる学校とする。また、PTAや地域社会とも連携することによって、本校の教育活動が有機的に展開することをめざす。

### 3 今年度の重点目標

創立120周年にむけ、建学精神に基づいた教育活動の実践に努める。

- (1) 「勉学を第一義とする」をふまえ、高い学力を身につけ進路志望の実現を図る。
  - ・ 1時間の授業の大切さを意識し、意欲的に取り組む。
- (2) 「品位を高め、他の人格を重んずること」をふまえ、よりよき集団づくりをめざし、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。
  - ・ 挨拶の励行、体力の向上、環境美化、成果ある部活動と生徒会活動の活性化に努める。
- (3) 「正義を愛し、社会から信頼されること」をふまえ、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。
  - ・ 保護者懇談会、授業公開の機会拡大。地域社会と連携したボランティア活動の推進。

平成24年度 自己評価計画書

石川県立金沢泉丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考	
「勉学を第一義とする」をふまえ、高い学力を身につけ進路志望の実現を図る。  ・1時間の授業の大切さを意識し、意欲的に取り組む。	① 校内研究授業や研究協議会などを通して、授業の質的な向上を図り、授業改善に取り組む。	教務課	従来から校内研究授業を、前期と後期に実施し、国語・地歴公民・数学・理科・英語は年2回実施している。学習指導委員会等を活用しながら教科と連携し、校内研究授業に取り組んでいる。 昨年度は、「授業が充実しているか」の値が3.39であり、実現状況の達成度判断がBになった。継続してAを目指したい。	【満足度指標】 生徒の授業に対する満足度が高まった。	「授業が充実しているか」について、4段階評価の平均値が、 A 3.40点以上 B 3.35点以上 C 3.30点以上 D 3.30点未満 ※ 4段階評価の基準 ・よくあてはまる …4点 ・ややあてはまる …3点 ・あまりあてはまらない …2点 ・全くあてはまらない …1点	C・Dの場合、授業改善に向けた取組みの再検討を行う。	生徒による授業評価を実施	
	② 基礎力の充実を大前提とした上で、難関大入試分析や東大・京大・医学部説明会等の充実を図る。 3年生には、きめ細やかな指導ができるよう、模擬試験のデータ処理・分析等を工夫する。また、受験集団としての意識を高める工夫をしていく。 2年生には、基礎力の充実に加えて、標準を超えるレベルの問題に対する対応力も育てる。	進路指導課	3年生は難関10大学及び国公立大学医学科への進学志望者が290名を超えている。東大志望者は順調に伸びてきているが、京大・医学部志望者はまだまだ伸びが足りない。 2年生は、中間層の基礎力充実に加え、上位層を伸ばして、超難関大に合格できるような生徒を増やすことが必要である。	【成果指標】 受験集団としての意識が高まり、東大・京大・国公立大学医学科の合格者が増加した。	東大・京大・国公立大学医学科合格者の合計人数（重複可）が、 A 40人以上 B 30人以上 C 20人以上 D 20人未満	C・Dの場合、授業や3年間を見通した進学指導について、再検討を行う。	次年度の当初に入試反省会・検討会を実施	
	③ ホーム担任及び学年主任は、年間5回以上の個別面接指導を行い、生活面をはじめ、授業や家庭学習、校外模試に臨む姿勢など学習面について、個に応じた指導を行う。	1学年	高校の勉強方法への切り替えが上手くいっておらず、家庭学習の習慣がついていない生徒が見受けられる。	全体的に高い学力を有し、絶えず努力している生徒がいる一方で、苦手教科があり、その克服に苦勞している生徒や、学習習慣が十分身につけていない生徒が少なからずいる。	【満足度指標】 個人面接指導により、生徒の学習姿勢や学力が向上した。	「学年団の指導が、自分の学習姿勢や学力の向上に役立った」という生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合、より効果的な個人面接指導のあり方について再検討を行う。	生徒によるアンケート調査を実施
	④ 授業内容をより充実させるとともに、朝学習や放課後補習・個人添削等を通して、生徒一人一人の志望や学力にあわせた指導を時機を逸することなく実施する。	2学年	難関10大学及び国公立大学医学科への進学志望者は290名を超え、東大及び京大を志望する生徒はそれぞれ約40名と、全体的に進路意識は高い。1年次・2年次と、基礎基本の徹底を柱に指導し、2年次には添削指導を新たに加え、指導してきたが、基礎学力がまだついていない生徒の割合は多く、上位層が増えてきてはいるが、まだ厚いとは言えないのが現状である。		【成果指標】 個に応じた指導により、第一志望の大学への進学が実現した。	難関10大学及び国公立大学医学科の合格者が、 A 100人以上 B 90人以上 C 80人以上 D 80人未満	C・Dの場合、授業や補習、個人添削等の方法について、再検討を行う。	次年度の当初に入試反省会・検討会を実施

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
<p>2 「品位を高め、他の人格を重んずること」をふまえ、よりよき集団づくりを目指し、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。</p> <p>・挨拶の励行、体力の向上、環境美化、成果ある部活動と生徒会活動の活性化に努める。</p>	<p>① 各種の講演会を生徒の発達段階に応じて適正に開催し、品位を高め心豊かで、将来リーダーとなる資質を育成する。</p>	総務課	<p>昨年度は、主なものとして10月に全校生徒対象に「生き方講演会」(藤原正彦氏)、11月に2年生対象に「社会人と語る会」、3月に1年生対象に「人権教育講話兼国際理解講演会」を実施した。</p> <p>その他、各種講演会が実施され、年間を通したバランスのよい配置が課題である。</p> <p>生徒のアンケートでは、86%の生徒が満足している結果が出ている。</p>	<p>【満足度指標】</p> <p>講演会を積極的に評価している生徒の割合が大きい。</p>	<p>生徒によるアンケートで「講演会が知識や経験を学び、生き方を考える良い機会となっている」の項目で、(よくあてはまる)+(ややあてはまる)の割合が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	C・Dの場合、次年度に向け、講師の選定等を工夫する。	生徒へのアンケート調査を実施
	<p>② 挨拶をきちんと行うことにより、相手を尊重する態度の育成を図る。教育活動のあらゆる機会を通して、しっかりとした挨拶の実行を促す</p>	生徒指導課	<p>挨拶・会釈はほとんどの生徒が行っているが、自らすすんで大きな声で挨拶する習慣ができていない者も少なくない。</p>	<p>【成果指標】</p> <p>しっかりと挨拶が出来る生徒が多くなった。</p>	<p>挨拶・会釈に関して「自分はしっかりと挨拶をしている」と答えた生徒の割合が、</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	C・Dの場合、HRや学年集会を通して、再度指導を行う。	生徒へのアンケート調査を実施
	<p>③ 部活動等の活性化及び競技力の向上を図る。</p>	生徒指導課	<p>昨年度は弓道部の県総体優勝をはじめ、北信越大会に複数の部が出場しており、県総体の総合順位は10位であった。文化部においても、新聞部、放送部、囲碁・将棋部、書道部、写真部が、全国大会で活躍している。</p>	<p>【成果指標】</p> <p>生徒主体の活発な部活動により、県総体の総合順位が上がった。</p>	<p>県総体の総合順位が、</p> <p>A 4位以上 B 8位以上 C 12位以上 D 13位以下</p>	Dの場合、次年度へ向け、指導方法を工夫する。	県高体連からの報告による。
	<p>④ ISO活動を通して環境保全意識の向上を図る。</p> <p>①節電・節水②紙の節約・リサイクル③ゴミの分別の3点を大きな目標とする。</p>	保健環境課	<p>昨年度の生徒アンケート調査では一昨年度に比べて5%程度の意識の向上が見られた(45%→50%)。これは東日本大震災・原発事故の節電報道による影響が大きいと推測される。一過性のもので終わらせないようにしたい。</p>	<p>【満足度指標】</p> <p>清掃活動が充実し、学校の環境美化が進んでいる。</p>	<p>ISO活動の実践や広報を通して環境保全に関する興味・意識が高まったとする生徒の増加の割合(昨年度比)が、</p> <p>A 10%以上 B 5%以上 C 0%以上 D マイナス</p>	C・Dの場合、取り組みの見直し・改善を検討する。	生徒へのアンケート調査を実施
	<p>⑤ 魅力ある充実した図書館を目指し、蔵書の電算化を活用し、効率的な図書検索や蔵書管理を行うとともに、図書コーナーを充実させるなど、読書・学習環境の整備に努める。</p>	図書課	<p>活字離れが著しい現代の若者の傾向は、本校においても例外ではない。豊かな人間性を育むためにも、読書習慣を身につけさせたい。</p>	<p>【成果指標】</p> <p>図書館の利便性が高まり、図書の貸出し数が増えている。</p>	<p>1年間(1月末現在)の本の貸出し数が、</p> <p>A 4,500冊以上 B 4,000冊以上 C 3,500冊以上 D 3,500冊未満</p>	C・Dの場合、図書館便りや読書案内など、広報活動に一層努める。	月毎の貸出し数調査を実施
	<p>⑥ 悩みや問題を抱える生徒の早期発見に努め、教職員間の連携を密にしながら、すべての生徒が希望を持って学校生活を送れるように支援する。</p>	教育相談室	<p>学習面でのつまずきや人間関係(友人関係、親子関係等)の悩み、漠然とした不安感などを持つことによって、学校生活に対する意欲を失いかけてたり、感情が不安定になったりする生徒が見受けられる。</p>	<p>【満足度指標】</p> <p>気軽に相談室を利用することで、精神の安定が保たれるようになる。</p>	<p>相談室を利用した生徒による学校評価アンケートの「気軽に相談でき利用しやすい」の項目で、(よくあてはまる)+(ややあてはまる)の割合が</p> <p>A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	C・Dの場合、学年、関係各課室と連携して対策を検討する。	来室者へのアンケート調査を実施

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 「正義を愛し、社会から信頼されること」をふまえ、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。  ・保護者懇談会、授業公開の機会拡大。地域社会と連携したボランティア活動の推進。	① 保護者懇談会、PTA 活動、いしかわ教育ウィークなどを通して積極的に学校を公開し、保護者や地域住民との連携を強くし、開かれた学校づくりをめざす。	総務課	昨年度 PTA 総会参加者は 805 名で、一昨年の 728 名より 10 %増であった。参加率は 72 %とかなり高い。3 年前から PTA 理事の希望制を取り入れ、意欲的な組織運営が軌道に乗ってきた。保護者懇談会はほぼ 100 %の出席率である。 いしかわ教育ウィークの学校公開中の来校者数が昨年は 108 名と減少した。さらに内容の工夫をしながら増やしていくことが課題である。	【成果指標】 本校の教育に対する保護者等の関心が高まり、学校公開への参加者が増えた。	PTA総会、「いしかわ教育ウィーク」、「生き方講演会」の保護者・地域住民の来校者数の合計が、 A 1,000人以上 B 800人以上 C 600人以上 D 600人未満	C・D の場合、PTAと協力して広報活動に努める。	PTA総会 (5/19) いしかわ教育ウィーク (11/1~7)
	② 理科科 1・2 年生が「創立記念祭における理科教室」、「中学生サイエンスフェア」及び「高校生による青少年のための科学の祭典」等において、小・中学生を対象にした理科教室を開講し、科学教育の面から地域に貢献する。	SSH 推進室	昨年度は、理科科 1 年生が、「創立記念祭」に来校した小・中学生に対して「理科教室」を開催し、参加者から好評を得た。また、理科科 1 年生や科学部生徒が、「中学生サイエンスフェア」等において、理科実験の説明及び解説を行っている。	【満足度指標】 「理科教室」の運営を通して、生徒の地域貢献に対する意識が高まる。	理科教室を開いたことを「大変良かった」または「良かった」と回答する理科科生徒の割合が、 A 90 %以上 B 80 %以上 C 70 %以上 D 70 %未満	D の場合、次年度に向け、取組の改善を検討する。	参加者へのアンケート調査を実施
	③ ホームページの更新を定期的に行い、各種行事・部活動・SSHの様子や教育課程・進路などの情報を、よりわかりやすく発信する。	情報管理室	各課室、学年、部活動顧問からの情報の提供によって、ホームページの更新頻度が上がっている。学校行事や生徒の様子がよく分かるように、内容を充実させ、情報の鮮度でも満足できるように努めている。	【満足度指標】 「学校のホームページにより、学校の様子がわかる」という保護者が増加した。	「学校のホームページにより、学校の様子がわかる」という項目の「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・D の場合、ホームページの内容の改善を検討する。	保護者へのアンケート調査を実施
	④ 「学年だより」、「進路だより」等を通じて、生徒の学校での様子を伝えるとともに、保護者の学校行事への参加拡大につなげていく。	1 学年 2 学年 3 学年	本校にあっては学校メール配信などによって、緊急的な連絡は随時されているが、より親密な書類での通信手段を使うことにより、学校を親しみやすいものとし、さらに保護者の学校行事参加を促す必要がある。	【満足度指標】 学校からのたより・通信等は学校の様子についてわかりやすく伝えているとする保護者の割合が高い。	学校からのたより・通信等は学校の様子についてわかりやすく伝えているとする保護者の割合が、 A 90 %以上 B 80 %以上 C 70 %以上 D 70 %未満	C・D の場合、次年度に向け、内容の改善を検討する。	保護者へのアンケート調査を実施